

はじめに

【調査概要・目的】

我が国を代表する外食チェーン 50 につき、業績、出店状況、メニュー・価格等の定量・定性データを収集し、それらを個別に、さらに業態別に、整理・加工・分析しました。それにより、我が国外食産業の現状・動向を客観的に把握することを目的としています。

【調査対象】

2018 年 1 月時点で、日本国内で 100 店舗以上 (FC 店舗含む) を展開する外食チェーン店から、業態バランス等を考慮し代表的な 50 チェーンを抽出し対象としました。

【調査方法】

原則として、業績関連については各社決算データ等を、展開エリア・メニュー関連については各社 HP 情報をソースとし、調査実施しました。

【調査期間・スケジュール】

2017 年 12 月～2018 年 6 月

(データ収集)2017 年 12 月～2018 年 5 月、(データ集計・加工・分析)2018 年 2 月～同年 5 月

(取り纏め)2018 年 6 月

データの見方と注意事項

第 1 章 外食 50 チェーン・個別データ分析

- 50 チェーンを個別に、見開き 2 ページで、1 号店・いづくに(年月・場所)、企業の基本的プロフィール(事業会社又は持株会社の本店所在地・代表者・資本金)、店舗数と展開都道府県マップ(2018 年 1 月時点)、直近 3 期の業績:店舗売上高(開示ない場合、事業部門売上高もしくは企業売上高)・既存店売上高前年比(データ非開示チェーン除く)・店舗数、店舗当り年間売上高(推計可能な場合のみ)、メニュー・価格分析:メニューミックス(カテゴリー別アイテム数と平均価格)、メインカテゴリーのトータルアイテム数と平均価格・プライスレンジ(最安値～最高値)、価格帯分布(メニュー・価格分析はグランドメニューを対象、原則としてフードメニューのみ・喫茶業態のみドリンク・フードの両方を対象。サイドメニューやセットメニュー等を除く単品価格)の調査結果を掲載し適宜コメントしています。
- 業績・企業データは、原則として 2017 年 4 月～2018 年 3 月における本決算を直近年度としています。(業績については「店舗売上高」、次いで「事業部門売上高」の掲載・分析を優先させています。そのため、調査時点でこれらの上記期間におけるデータが未開示であるチェーン(※)については、2017 年 2 月期・3 月期を直近データとしています。(※)カプリチョーザ、杵屋、CoCo 壱番屋、コメダ珈琲店、サガミ、ドールコーヒーショップ、八剣伝。)
- 展開都道府県・店舗数データは、2018 年 1 月(月初)時点のものです。上述のとおり、店舗数は各チェーンの HP を閲覧・カウントしたものです。これと企業公表値(IR 情報における 12 月末時点店舗数)とが異なる場合には、後者を採用していることがあります。
- メニューデータは、2017 年 12 月(初旬)時点のものです。価格は税込ベースです(「税抜き価格+消費税」として表示のチェーンについては税抜価格に 1.08 を乗じ端数は切り捨てました)。公平性の観点から一律、各チェーン HP に掲載のメニューを対象としました(地域別メニューの場合は原則として東日本のメニューを採用しました)。

第 2 章 外食 50 チェーン・8 業態別データ分析

- 50 チェーンを 8 つの業態グループに分類し、グループ別に(1)店舗数×店舗数伸び率 マトリクス分析、(2)店舗数伸び率×既存店売上高伸び率 マトリクス分析、(3)商品数×平均価格 マトリクス分析、(4)価格帯分布ヒストグラム、商品数最多価格帯 比較、(5)出店エリア(都道府県・地方)比較を行いました。(業態の性格を考慮し、「FF 回転寿司」及び「FR 焼肉、焼肉居酒屋」のみ、(3)(4)について前者は「商品数、価格分析」、後者は「食べ放題コース 商品数×価格 比較」を行いました。
- いずれも、第 1 章の個別データ分析で使用したデータをソースとし加工・分析しました。業績データについては、ここでは 2017 年 1 月～同年 12 月における本決算を直近年度としています。

以上は、基本的な事項です。これらの他にも、調査実施上設定した詳細条件があります。適宜注釈として記していますので、ご参照下さい。